

1 スライド1：東電福島第一原子力発電所の状況は安定

①ALPS（注）処理を含む重層的な汚染水対策、②汚染水とALPS処理水は異なること、③ALPS等によって放射性物質が100万分の1程度にまで減少すること、④東電福島第一原発の周辺海域や大気中の放射線量の大幅な減少、について紹介。

（注）ALPS：多核種除去設備（Advanced Liquid Processing System）

2 スライド2：トリチウムの性質、ALPS処理水の取扱について

- トリチウムは自然界に存在し、健康への影響は極めて少ない旨説明。
- ALPS処理水の取扱については引き続き検討中だが、いずれにせよALPS等で再浄化され、残ったトリチウムについては規制基準を満たすよう希釈されることが検討にあたっての条件である旨説明。
- 原発事故由来のトリチウムと原子力発電所の稼働で放出されるトリチウムを区別する科学的根拠はない旨説明。
- トリチウムは世界中の稼働中の原子力発電所から放出されている旨指摘。

3 スライド3：東電福島第一原子力発電所にかかるIAEA報告書での評価

- 種々のIAEA報告書（廃炉、海水モニタリングなど）において我が国の取組が評価。これら報告書につきIAEA加盟国から異議が出ていない旨紹介。
- その上で、我が国は引き続きIAEAが事実に基づいた、不偏的な立場から評価を行っていくことを支持。

4 スライド4：我が国による国際社会への情報提供の取組及び結論

- 我が国による国際社会への情報提供の取組として以下を紹介。
 - これまで在京外交団向け説明会を104回実施（直近では11月21日実施。韓国を含む18か国・地域が参加）。
 - 原則毎月1回の在京外交団及びIAEAへの通報。
 - 国際会議の機会にサイドイベントを開催するなどして技術的報告を実施。
 - 廃炉の進捗状況や環境への影響に関する報告書をIAEAに提出。

●結論

- 東電福島第一原発は安定状態に移行。同原発に貯蔵されているのはALPS処理水で、ALPS等により放射性物質が100万分の1程度にまで減少。IAEA報告書での我が国の取組への評価につき加盟国から異議が出ていない。
- 我が国はIAEAと密接に協力。引き続き、IAEAによる評価を信頼。
- 我が国は引き続き、国際社会に対し丁寧に透明性をもって説明していく。
- 我が国は根拠のないあらゆる主張に対し、我々の立場を説明する用意がある。